

# SANKYU

株主の皆様へ

第108期中間 (2016年4月1日～2016年9月30日)

## Thank you 便り



※写真の詳細はP3-4に掲載してあります。



認定通関業者・特定保税承認取得者

- ISO9001 認証取得
- ISO14001 認証取得



子育てサポート企業認定



**山九株式会社**

証券コード:9065

<http://www.sankyu.co.jp>

# 「創立100周年の先を見据えた収益力強化」に、グループ一丸となって取り組んでまいります。

国内外の環境は決して良好ではなかったものの当上半期における物流事業の売上高は前年同期比0.2%の減収でしたが、営業利益は12.0%増益を達成いたしました。機工事業も売上高が15.3%増収、営業利益が40.7%増益で、山九グループの連結業績は売上高が6.7%増収、営業利益が28.4%増益となり、ここまでのところ堅調に推移してきました。

代表取締役社長

中村 公大



Q 当上半期の経営環境と業績について総括をお願いします。

A 依然、厳しい情勢が続く中、前年同期を上回る業績となりました。

当上半期(2016年4月1日～9月30日)における世界経済は、全体としては景気減速の流れに歯止めがなかったとはいえ、力強さを欠いた状態が続きました。米国では内需関連が景気を下支えするものの、ドル高と海外需要の低迷で輸出や設備投資が伸び悩み、成長率を押し下げ要因となりました。

ユーロ圏ではBrexit(英国のEU離脱)で先行きに不透明感が生じていますが、資源安に伴う物価の抑制効果が実質所得を底上げし、その結果として個人消費が景気をけん引しました。中国では輸出の低迷や製造業への投資の鈍化などから、緩やかな減速傾向が続き、その他の新興国は全般的に最悪期を脱したと目されるものの、依然としてBRICs

(新興諸国)の一部では景気後退が続いています。

一方、国内では雇用や所得の緩やかな回復や、物価下落に伴う実質所得の堅調ぶりが個人消費を下支えしましたが、輸出・生産は横ばい傾向を示しており、相変わらず景気は踊り場を脱していないようです。

こうした厳しい情勢が続く中、当社グループの物流事業分野では国際物流事業における輸出入貨物や設備輸送取扱いが低調だったものの、港湾事業におけるコンテナ取扱量の好調が続くとともに、前期に開設した物流センターと新規受注の小口配送業務が収益に寄与しました。

また、機工事業分野では国内の化学構内におけるSDM(大型定期修理工事)の獲得や、製鉄所構内における関連

設備工事の拡大、海外における設備工事案件の増加などから、全体的に工事量が拡大しました。

その結果、当上半期の売上高は2,544億5百万円で前年

同期比6.7%増、利益面では営業利益が135億97百万円で28.4%増、経常利益が132億43百万円で39.1%増、純利益が88億59百万円で55.6%増となりました。

Q 海外での山九のユニークの展開状況を教えてください。

A 「山九のユニーク」は国内での実績を積み上げ、海外でも着実に拡大しています。

お客様のプラント建設から操業支援、メンテナンス、物流まで全てを有機的に結びつけたサービスが「山九のユニーク」です。

国内における製鉄所や石油・石化プラントで培ってきた当社ならではのビジネスモデルで、これまで多くのお客様に評価を頂きました。

このサービスを国内と同じ品質で海外でも提供することで、中国や東南アジアでは広く浸透してきました。加えて近年、中東においてもその活動が実を結んでおります。

日系の企業だけではなく、サウジアラビアの製油所や石

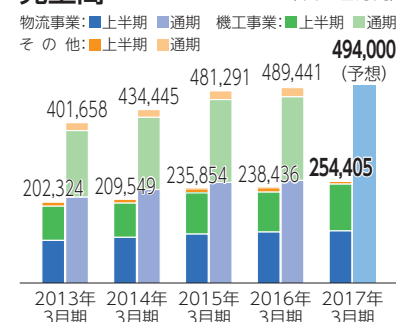
化プラント企業からも高い評価を頂き、これまでの建設、操業、メンテナンスに加えて、新たに製品物流の引き合いを受け、近く中東におけるユニークモデルとなる予定です。更にオマーンにおいても同様に事業の展開を図っております。

一方、中東での事業領域拡大に伴い、動員力を確保するために現地人財の雇用、育成を目的とした留学生インターシップを開始しました。

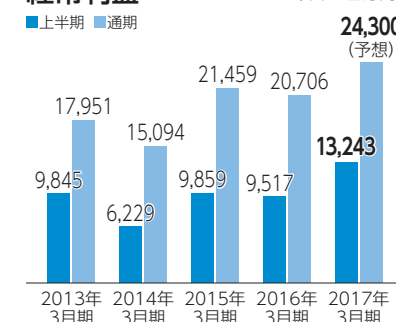
今後、戦略的に人財、機材、インフラへの集中投資を行い、世界で類を見ない「山九のユニーク」をグローバルに展開してまいります。

## 業績ハイライト

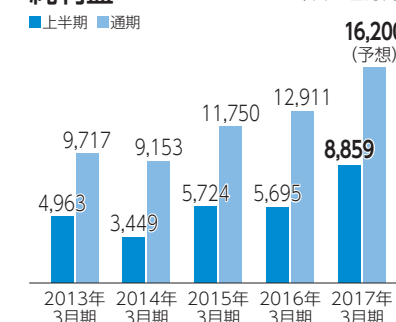
### 売上高



### 経常利益



### 純利益



CSR

「平成28年熊本地震」復旧・復興支援  
熊本・大分両県への義援金贈呈及び復旧・復興支援

平成28年4月14日に発生した熊本地震の復興支援・援助を目的とした募集に対し、山九グループ国内外あわせて14,993,672円の義援金が集まりました。熊本・大分両県復興への思いを直接届けるため、当社グループを代表して社長が熊本・大分両県を訪問し、会社寄付と合わせて合計2千万円を義援金として贈呈しました。また、地震発生後の現地でのトラック輸送対応・倉庫情報提供に対しお客様から感謝状をいただきました。



熊本にて



大分にて

国内事業

風力発電分野への事業展開  
ブレード専用輸送機の開発により安全で効率的な建設工事を実現

当社は風力発電の建設事業にも積極的に関わっています。今夏秋田県に建設した風力発電は3基。資材調達から携わり、到着したそれぞれ長さ50.2mのブレード(羽)と5分割された80mのタワーを夜間に山の麓まで輸送。麓からは「風力発電設備ブレード起立装置」を使用し、縦に起立させることで狭い山道をそのまま輸送可能にしました。その後の組み立て据付も当社で実施しました。



風力発電建設風景



風力発電設備ブレード起立装置

海外事業

国際交流の拡大  
サウジアラビアのアルファレ・エネルギー産業鉱物資源大臣(サウジアラムコ会長)、ナサール・サウジアラムコ社長と会談

当社、中村会長と中村社長は、9月にサウジアラビア国のエネルギー産業鉱物資源大臣であり、サウジアラムコ社の会長でもあるカーリッドA.アルファレ大臣、並びに同社のアミン・ナサール社長と会談を行いました。会談の中では、当社の「3PM」(Third Party Maintenance)ビジネスモデルの紹介をし、併せてプラント・エンジニアリング、オペレーション・サポートを展開する同国において、ロジスティクスも加えた「山九のユニーク」を実現することにより、人財育成と同国社会の発展に寄与したい旨を伝えました。

※サウジアラムコ社は、サウジアラビア国の国営石油会社であり、世界最大の保有原油埋蔵量、原油生産量、原油輸出量を誇ります。



2016年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

海外事業

海外における業容拡大  
オマーン ソハール製油所で装置オペレーション及びメンテナンス業務を受注

山九サウジアラビアは、オマーン ソハール製油所の石油コークス装置のオペレーション及びメンテナンス業務の契約をいたしました。これは、サウジアラビアにおける製油所関連のメンテナンスやオペレーションサポートの豊富な実績と経験に加え、石油の精製過程で発生する石油コークスの切断作業においても、毎日千数百トン対応できる十分な実績が評価されたものです。



国内事業

国内における大型受注  
君津製鉄所第5コークス炉の改修工事を受注

当社は8月に新日鐵住金株式会社君津製鉄所殿の第5コークス炉改修工事を受注しました。第4コークス炉に続いて連続の受注となり、これまでの工事の中で、施工現場と設備に関する高い知見を蓄積した当社の技術力、企画提案力、動員力がお客様の信頼を獲得し、同改修工事の受注につながりました。生産設備の更新の必要性が増す鉄鋼業界各社において、設備の改修需要は高い水準にあると考えております。コークス炉改修工事で得られた知見を基盤に、「コークス炉の山九」のブランドネームをより強固なものとして今後も継続受注に取り組んでまいります。

海外事業

マレーシアにおける大規模プロジェクト  
「RAPIDプロジェクト」  
エチレン製造設備の建設工事を開始

山九マレーシアは、マレーシアの一大国家プロジェクトである「RAPIDプロジェクト(Refinery and Petrochemical Integrated Developmentの略)」のうち、エチレン製造設備の建設工事を開始しました。今回建設するエチレン製造設備はスチーム・クラッカー・コンプレックスと呼ばれるナフサから高収率でエチレンを生産できる、同プロジェクトにおける最重要設備であり、総据付重量約30,000トン、1日当たりの動員数500人の大型建設工事となります。今後も山九グループは、プラント建設工事における実績に基づいた技術力、対応力を結集させ、グローバルに石油産業の発展に寄与してまいります。



## 機工事業の更なる拡大に向けた山九の戦略機材のご紹介

7月12日、北九州若松区にある若松工場において、今年導入した新型ドーリ及び800トンクローラークレーンをお客様とマスコミ関係者に披露いたしました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、沢山のお客様と地元のテレビ局3社、新聞社3社が参加。2つの重機を使用したデモンストレーションでは、参加者の方々は真剣な面持ちで見学されていました。その後のマスコミ向け質疑応答の際も数多くの質問があり、当社の戦略機材についての関心の高さが窺えました。現在はドーリ、クレーンともに国内の建設現場で活躍中です。



マスコミの取材を受ける山口事業部長



### 超重量物の輸送力強化 最新型のユニットドーリ(タイプV)

当社は日本初となる最新鋭の超重量物輸送特殊車両「ユニットドーリ タイプV」(ドイツ、ショエル社製)を導入しました。今回導入した最新モデルは最大積載量が1軸あたり60トンとこれまでの40トンに比べ大幅な能力向上を実現しています。また、一部タイプの車両は縦方向に2分割できるスプリットタイプとなっており、積載する物のサイズや形状によっては、従来2台編成が必要であった輸送作業を1台で行うことが可能になります。これまでの車両と組み合わせると積載能力9,330トンの編成も可能となりました。(ご参考までに、東京タワーが約4,000トン、エッフェル塔が約9,000トンです。)



スプリット(分割)タイプの「ユニットドーリ」

### 800トン級の吊上げ能力を有する 最新鋭の大型クローラークレーン

当社は、800トン級の吊上げ能力を有する最新鋭の大型クローラークレーン(ドイツ、リーペル社製)を導入しました。このクラスとしてはコンパクトな車体ながら、クラス最長となるロングブームを有しており、特に100メートル以上の吊上げ高さや大きな作業半径を必要とする大規模プラント建設などの作業において活用しています。

今後、建設ラッシュが進み、人材不足同様に大型クレーンなどの機材不足も懸念される中、当社は中期経営計画の重点的取組みの一つとして戦略機材の導入を進めており、今回の国内への戦略機材導入により、コスト・作業効率の両面でより効果的な提案ができるようになりました。

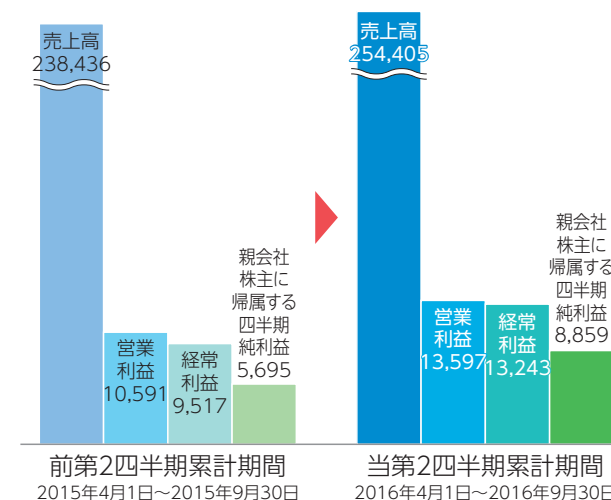


#### 大型クローラークレーン

- 最大吊上げ荷重 公称性能750トン
- 最高吊上げ高さ 約190m
- 旋回最少作業半径 7m(360度旋回時間1.5分)

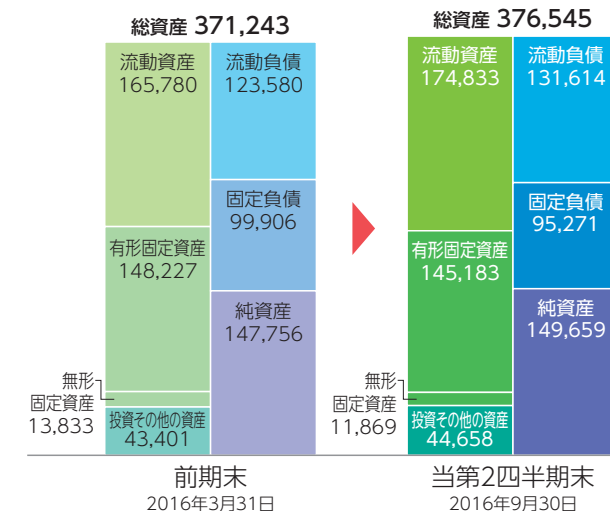
### ① 連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



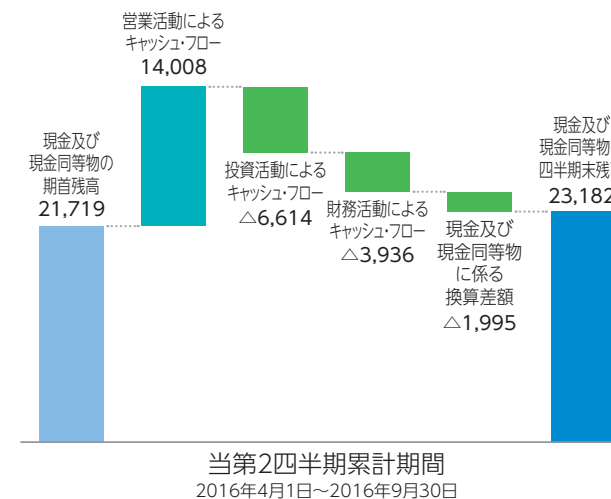
### ② 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



### ③ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



## POINT

- 国内におけるSDMがメジャーであったことに加え、鉄鋼関連の大型改修工事の受注が拡大、また当第2四半期連結会計期間より開始した小口配送業務収益や、前期に開始した物流センターの期間差収益などにより、前年同期に比べ増収増益となりました。
- 国内外の固定資産の償却および円高の影響により、固定資産は減少しましたが、作業量の増加に伴い売上債権が増加したことなどにより、総資産は前期末比53億1百万円増加し、3,765億45百万円となりました。
- 前期から繰り越した債権の回収が進んだことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローが大幅に増加したことを主因に、当第2四半期の現金及び現金同等物の四半期末残高は、前期末比14億63百万円増加し、231億82百万円となりました。

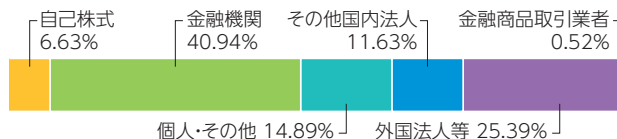
## 株式データ (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株  
 発行済株式総数 326,078,030株  
 株主数 13,221名

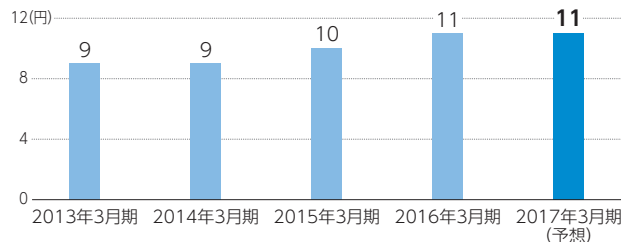
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	30,017	9.85
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	16,744	5.49
JP MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A.380578	10,940	3.59
新日鐵住金(株)	10,080	3.31
(公財)ニビキ育英会	9,800	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	9,639	3.16
JP MORGAN CHASE BANK 380684	8,375	2.75
(株)みずほ銀行	8,310	2.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	7,273	2.38
山九従業員持株会	7,240	2.37
合計	118,420	38.89

(ご注意) 1. 上記の他、当社保有の自己株式21,616千株があります。  
 2. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。  
 3. 株式数については千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

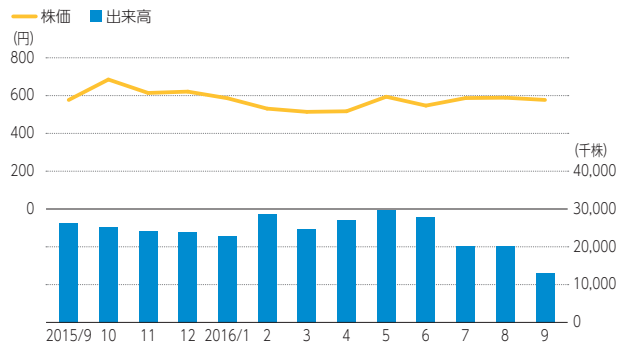
## 所有株式数別構成比率



## 1株当たり配当金



## 株価・出来高の推移



## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日まで  
 期末配当金 3月31日  
 受領株主確定日  
 中間配当金 9月30日  
 受領株主確定日  
 定時株主総会 毎年6月  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座 口座管理機関  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒137-8081  
 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 TEL 0120-232-7111(通話料無料)  
 公告の方法 電子公告により行う  
 公告掲載URL  
<http://www.sankyu.co.jp/koukoku/>  
 (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



山九株式会社

証券コード:9065

<http://www.sankyu.co.jp/>

将来情報に関するご注意

本誌の掲載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測にはリスクや不確定要素が含まれており、実際の成果や業績と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。